

予想より、かなり早く達成

吉備路温泉入浴50万人目

サンロード吉備路の吉備路温泉の入浴者が5月16日、50万人を突破しました。

記念すべき50万人目になったのは、倉敷市の友人と来た山之内香さん(岡山市)。花束と記念品の「ペア宿泊券」が贈られ、「友人とまた来ます」と笑顔いっぱいでした。

当初の5年という予想をはるかにしのぐ、オープンから3年9か月でのスピード突破でした。



喜びの表情の山之内さん



家族らと写真におさまる山上さん



感謝状を持ってにっこりの風早さん

100歳おめでとうございます

山上榮さん 風早はなさん 100歳お祝い

5月19日に山上榮さん(小寺)が、5月20日には風早はなさん(地頭片山)が、ともに100歳の誕生日を迎えられ、県と市からお祝いの品が贈られました。

山上さんは、幼いころから家事や農業の手伝いをし、健康には自信があったそうです。家族によると長寿の秘訣は、「あまり気を使わないことが、元気の秘訣」ということです。

また、風早はなさんは、若いときからほとんど病気をしたことがなく、今も日課として老人車を押して家の近くを散歩しています。そして、「家族との食事が一番の楽しみ」と、うれしそうに話してくれました。

ミニフォト

田植え体験を満喫



にぎやかに田植え

5月27日、石垣のあぜが美しい下倉の槻地区で田植え体験が行われました。参加した家族連れ約80人は、綱に沿っていねいに苗を植え、田植えを満喫した様子。田植えの後は、地元が用意したしろみにて舌鼓を打っていました。

荘厳な鬼瓦が再び



取り付けられた鬼瓦

宝福寺の仏殿の2階の大屋根の瓦葺きがほぼ終了し5月28日、棟や屋根の四隅に、修理を終えた鬼瓦が再び取り付けられました。仏殿を覆っていた上層部の仮屋根も取り外され、地上からもその様子が見られるようになりました。

収穫と作る喜びを知ってほしい



「でっかいのがあったよ!」

サン直広場ええとこそうじゃ組合主催の農作業体験が6月2日、久代地内で開催されました。家族連れ約60人が、ジャガイモ掘りとサツマイモの苗植えを体験。昼食には、収穫したジャガイモを使ったカレーが登場しました。

世界の走りを目の当たりに

子ども体力向上キャンペーン

6月1日、アトランタ五輪マイルリレーで5位入賞した荻部俊二さんが阿曾小学校を訪れ、ハードルを指導しました。

これは、文部科学省と日本体育協会が主催する子どもの体力向上キャンペーンの一環で開かれたものです。5・6年生49人が参加。「ハードルを速く飛び越えるには、抜き足を横にし、少し前傾姿勢で」と、荻部さんは一つひとつ手本を示しながら、ハードルの基本を指導しました。

最後に、ハードルを高い向きに変え、往年の走りの一端を披露した荻部さん。子どもたちは、そのスピードに目を丸くしていました。



模範演技で見せた荻部さんのスピードにびっくりする子どもたち

地球環境を考えるサミットも開催

環境を考える集い

環境問題について考えてもらおうと、環境を考える集いが6月2日、市民会館で開かれました。

この集いには約600人が参加しました。NPO法人ネットワーク「地球村」の高木義之さんが「美しい地球を子どもたちに」と題して講演。高木さんは、「ごみや地球温暖化などについて、事実を知ることが大切。そのうえで、一人ひとりができることに取り組んでほしい」と訴えました。

また、この日、全国から約30の市や町が集まり、サンロード吉備路で環境を考える自治体サミットが開催されました。ここでは、各市や町が環境保全のための取り組みを紹介。サミットのコーディネーターも務めた高木さんは、「明確なビジョンをもって取り組んでほしい」と、参加者にエールを送りました。



参加者に問い掛けながら地球環境の実情を紹介する高木さん

悠久の歴史への思いを込めて

ヒノキの作品を展示

5月15日、鬼城山ビジターセンターのロビーに、なんばみちこさん(上原)の詩を高木聖鶴さん(真壁)が揮毫した作品が展示されました。

詩は、市制施行40周年を記念して作られた交響詩曲「吉備路」の第4楽章で、吉備路の悠久の歴史と文化に思いをはせて詠まれたもの。この詩が、縦46cm横212cmのヒノキの一枚板に書かれています。高木さんは「多くの人に来館して見ていただきたい」と、披露の式であいさつされました。



作品について語り合う高木聖鶴さん(写真・左)となんばみちこさん